

亞科によつて共通な特徴を見出すことが出来ない。一つの亞科のある屬が他の亞科の屬に非常に似てゐることが往々ある。例へば *Macroglossum* 屬と *Thereatra* 屬の如きものである。恐らくは之等は ROTHSCILD, JORDAN 兩氏が成蟲に於て見出したやうな各構造の收斂作用によるものであらう。

4) 著者は次の十七種の蛹について研究した。之等は著者自身飼育し、且同定したるものである。

A. Sphingidae asemanophorae, Subf. Acherontiinae, Tribe Acherontiicae, *Herse convolvuli* LINNAEUS (エビガラスズメ); Tribe Sphingicae, *Psilogramma menephron* CRAMER (シモフリスズメ); *Sphinx caligineus* BUTLER (クロスズメ); Subf. Ambulicinae, *Clanis bilineata* WALKER (トビイロスズメ); *Marumba gaschkewitschi* BREMER et GREY (モモスズメ); *Marumba sperchius* MENETRIES (クチバズメ); *Callambulyx tatarinovi* BREMER et GREY (ウンモンスズメ); *Smerinthus planus* WALKER (ウチスズメ); B. Sphingidae semanophorae, Subf. Sesiinae, Tribe Sesiicae, *Cephonodes hylas* LINNAEUS (オホスカシバ); Subf. Philampelinae Tribe Nephelicae, *Acosmeryx castanea* ROTHSCILD et JORDAN (クロクモスズメ); *Gurelca masuriensis* BUTLER Subsp. *sangaica* BUTLER (ヒメホウジャク); *Macroglossum pyrrhosticta* BUTLER (ホシホウジャク); *Macroglossum saga* BUTLER (クロホウジャク), Subf. Choerocampinae, *Thereatra nessus* DRURY (キイロスズメ); *Thereatra japonica* ORZA (コスズメ); *Thereatra oldenlandiae* FABRICIUS (セスデスズメ); *Rhagastis mongoliana* BUTLER (ビロウドスズメ)

XVI. カレハガ科の翅の斑紋に就て

矢野宗幹 (東京)

鱗翅類の翅の斑紋は主として鱗片の色に起因する。鱗片の色は原始的には淡褐色で、其の色が濃くなつて褐色黒褐色と進み、一方には他の色彩が出来て來た。色が濃くなるには全面一様ではなく、所々に其の差が出来て、濃淡參差して斑紋を生ずるに至つた。其に種々の色彩が織りこまれる事になり或は翅全體がある色に染まつたのである。

この斑紋を二つに別ける。一つは地の色から漸次濃くなつて來た比較的舊い斑紋で、之を一次の斑紋とする。次に起つて來たものを二次とする。

斑紋は種又は屬個々に發達して來たものではあるまいか。或は個々に起つたとしても互の間に何等かの連絡は認められないか。私はカレハガ科の蛾の主に日本産のものに就いて觀察した結果、少くとも私の一次的斑紋と思ふものには

此の科全體の種の間にて互に連絡あるものと考へる。換言すれば、斑紋の基本型を考へて其の發達變化と明滅消長によつて現在の斑紋が現はれて居るものと考へる事が出来る。

私は基本の斑紋を五つに別ける。其の中心は間室横脈に位置するものであつて之は線ではない。之を中心として翅の左右に前後に走る各二本の線を考へる。之等の斑紋を、翅の基部から始めて I, II, III, IV, V で現はす。従つて間室端にある斑紋は III となるのである。

翅脈の發達から考へれば間室横脈は餘り重要なものでないかも知れないが、翅の機構上からは重要な位置で従つて斑紋の發生發達の上から主要な位置を占める。此の兩側の II 及 IV の線は翅脈の上から發達して互に連絡して線となつたものかと思はれ、I と V とは室の中で起つた點の發達により起つたものかと思はれる。

次に各斑紋の現はれ方を略述する。

(I) 是は翅の基部にあつて明瞭に現はれる事は稀である。

(II) 多くの場合に不完全ではあるが、現はれる場合が少くない。

(III) 殆んど明かでないものから發達したものまである。(1) 不明なもの。(2) 黒點。(3) 白點、是は濃色でとりまかれた環點と思はれる。(4) 銀點。(5) 斑紋が大きくなつて間が縊れ二つに別れたもの。等。

(IV) 此の線は多く明瞭である。(1) 一本の濃色の線。(2) 幅が廣くなつて帶狀となり兩側が濃色になる事がある。

II と IV との線の間が濃色になつて一本の帶狀斑のやうになつたものもある。其の場合には無論 III の斑紋は其の帶の中に點として現はれる。

(V) 多くは明瞭な點線となつて現はれるが、時には消失する。

IV と V との間又は V の外方などに斑紋の發達したものもある。然し之は二次的のものとして茲には略する。

同一種の中にも個體的變異がある。(1) 斑紋の位置の移動。(2) 濃淡の程度の差及二次的色彩の多少。(3) 斑紋の明瞭さの多少、即時には斑紋が殆んど消失する。而して異種にても近縁種にてはかゝる變異は平行的に現はれる。其爲め種徴を見出す事が困難である。

最後に附記すべきことは、上述の五つの基本的斑紋は、鱗翅類の多數(恐らく全部)に共通のものであらうと私は想像して居る事である。少くとも此の考で複雑な斑紋を分解し得ると考へるものである。